

ディベートが良い聞き手を育てる

授業ディベートの捉え方

授業ディベートを簡潔に説明すると、以下のようになります。

- 論題の是非を問うシミュレーションである
- 相手の話をしっかり聞いたうえで、鵜呑みにしない判断力を向上させるための訓練である
- 説得力を向上させるためのコミュニケーション訓練である

論題が正しいかどうか、暫定的な立場をとって検証するという意味でシミュレーションです。そして、相手の話をしっかり聞いて、そのうえで鵜呑みにせずに批判的・批評的に聞く態度とスキルを向上させる訓練です。

コミュニケーション能力、特に説得力のある話し方を身につけるために、人前でいろいろな形式の話し方、例えば準備したスピーチを読む、即興でスピーチを行う、質疑応答を行うなどを経験させる訓練です。

ディベートというコミュニケーション行為

会議などでは、幸いなことに冒頭において参加者が一人一人どのような考えをもっているかを表明する必要はありません。そのため、まずは発言を控え、まわりの空気を察することから始める人が多いのではないのでしょうか。それどころか、会議の最中、ずっとだまっていたとしても問題にならないことが多いのが現実です。

しかし、対立点をはっきりとさせた議論をしないと、なあなあになってしまい、分析は深まらないし、多面的な視点を取り入れた分析ができないという問題点が生じます。また、対立を避けようとばかりしていると、それまでの発想の域にとどまってしまう。

ディベートでは対立を避けることは許されないばかりか、対立を情緒的に処理することすら許されません。最初から立場を決められ、その立場で一貫した議論をしなくてはなりません。したがって、当然ながら対立を乗り越えようとします。その際に新たな発想が生まれます。これが、ディベートのおもしろさ、生産的な要素の一つです。

ディベートで思考能力が向上する

ディベートをすることで、思考・発想能力およびコミュニケーション能力が向上すると考えられています。コミュニケーションの基本は、人の話をしっかりと聞いて、相手の考えを受け止めるということです。ディベートでは、人の話をちゃんと聞けない人は通用しません。また、自分の意見をわかりやすく話すことが要求されます。

良い聞き手になるために

ディベート教育の第一の目的は、良い聞き手になることです。話し手の議論がどのような価値観にもとづいているのか、どのような論理の流れになっているのか、話し手の主張はどのような根拠・資料に裏付けられているのか、といったことを正確に聞き取ることを主眼とすべきです。クリティカル・シンキング（批判的・批評的思考）をもとにしたクリティカル・リスニングという、話し手の考えを鵜呑みにしない聞き方です。

自信ありげに堂々と話している、専門的な知識がありそうに話している、言葉を巧みに使って話している、といった印象で話し手を評価するのではなく、クリティカルな発想で考えながら聞くことによって、論理的、合理的に判断を下す習慣がつくようになります。

聞くことを重視しないと、ディベートが単なる感情の発散の場に終わってしまう可能性もあります。相手のアラを探して言い込めるという発想や態度では、建設的なコミュニケーション活動にはつながりません。よいコミュニケーターになるためには、まず良いリスナーになることです。

ディベートでは、他人の意見を冷静に読み取ることが基本となります。実際、ディベートに参加することで、知らず知らずのうちに論理を追う聞き方を実践することになります。